

精神保健セミナー

演題

精神医療における 身体拘束の問題点

講師

長谷川利夫 先生
(杏林大学教授)



近年、日本の精神科病院で、身体拘束の件数が急増しています。ここ数年は年間一万件以上と高い水準にあり、平均継続期間も約100日間と、平均数時間の欧米に比べて、異常に長期間に及ぶ傾向があります。長谷川先生は早くからこの問題に取り組んでこられ、昨年5月に日本の精神科病院で身体拘束の後に亡くなったケリー・サベジさん（享年27歳）の事件をひとつのきっかけとして発足した「精神科医療の身体拘束を考える会」の代表もつとめられています。本講演会では、精神科に限らない「身体拘束の濫用」の現状とその構造的要因について、お話しをうかがいます。

日時

2018年 **5月29日** (火)

19:00-21:00 (18:30開場)

会場

筑波大学 東京キャンパス
1F134教室

東京都文京区大塚3-29-1 (右図参照)
東京メトロ丸の内線「茗荷谷」駅徒歩3分

申込

参加費は**無料**です。

参加希望の方は
seishinhoken@hotmail.com まで
お名前・ふりがな・ご所属を明記の上
お送りください。



お問い合わせ

筑波大学大学院 ヒューマン・ケア科学専攻 社会精神保健学分野
TEL・FAX 029-853-3099